

農家と農業委員会をむすぶ

あきたし

# 農委だより

第63号

編集 秋田市農業委員会  
 発行 所 〒010-8560  
 住所 秋田市山王一丁目1-1  
 TEL (018) 888-5796  
 FAX (018) 888-5797



ちんげんさいの定植作業



枝豆の脱莢と荒選別作業

## 実習で汗を流す新規就農研修生 (園芸振興センターにて)

※詳細は4、5ページに

### 【新制度2期目を迎えます】

農業委員会に関する法律が改正され、平成29年に農業委員と農地利用最適化推進委員の新体制となり2年が経過しました。

委員の任期は3年ですから、来年の7月には新体制2期目を迎えます。

農業委員19人、推進委員29人について、これから募集することになります。

現在、説明会の開催や募集の時期等について検討しています。

決まり次第、「広報あきた」や農業委員会ホームページでお知らせします。



### タブレット型端末操作 研修会を実施しました

令和元年6月、農地利用最適化区域部会に合わせて、区域ごとに、農業委員会タブレット型端末操作研修会を開催しました。

研修では、農業委員会事務局職員が講師を務め、付近の農地を遊休農地と見立て、タブレットに現地状況を記録する操作などを実践演習しました。

研修に参加した推進委員からは、「タブレットの操作に少し不安な部分があったが、研修を通じて不明点が消え、自信をもって業務に活用できる」との声が聞かれ、有意義な研修となりました。



タブレットを使用し農地を撮影する様子

### 推進委員からの報告

## タブレットの活用について



推進委員  
荻原 豊

タブレット型端末は、我々農地利用最適化推進委員全員に貸与されており、推進委員の日々の活動をサポートしてくれています。タブレットにはGPS（人工衛星を利用した位置情報システム）が搭載され、ボタン一つで航空写真や電子地図上に現在地を表示することができます。また、カメラ機能も備わっており、推進委員が農地の見回り中に遊休農地を発見した際や、地元農家から農地相談を受けた際などに、対象農地の現況を撮影し、地図情報と関連付けて保存することができます。

これらの機能により、従来と比べて、より効率的・効果的な農地パトロールが可能となりました。また、遊休農地や農家からの相談内容などについて、地図や写真をタブレット上に表示して、区域部会などの場で情報共有することで、農業委員・推進委員同士が、地域の課題に対して、より連携を密にして対応できるようになりました。

タブレットを使用することで、地元農家から相談を受けて現地を見に行く際に、農地の場所を特定するのが容易になったと実感しています。今年も、8月から9月にかけて、市内全5区域で農地パトロールを実施しました。この後、担当区域の農業委員・農地利用最適化推進委員が遊休農地の所有者を訪問して利用意向調査を行います。今年度は、タブレットで撮影した遊休農地の写真等を見せながら所有者に説明するなど、より進んだタブレットの活用を予定しています。

現場で活動する推進委員を見かけた際は、お気軽にお声がけくださるようお願いいたします。

### 令和元年度秋田市農業活性化フォーラムの開催 農の将来を切り開く！ 農業法人の設立に向けて

8月9日(金)に秋田ビューホテルにおいて、秋田市農業活性化フォーラムを開催しました。

これは、本市の農業振興などを目的として、毎年農業委員会が開催しているものです。

今年、「農の将来を切り開く！農業法人の設立に向けて」をテーマに3人の講師をお招きし、それぞれの専門分野についてお話をさせていただきました。最初の講演は、県の農林政策課の繁野毅副主幹から「農業法人の設立について」と題し、農業法人の概要から法人設立の手続きなどについて講演をいただきました。法人化はあくまでも手法であり、法人を設立した後の経営が一番大事であるとお話が印象的でした。

二人目は、県立大学の渡部岳陽准教授より「集落営農づくりと持続可能な組織のあり方」と題し、講演をいただきました。県内の3つの集落営農を事例紹介しながら、それぞれが持つ特徴や課題について説明していただきました。集落営農を進めるには、参加する農家一人ひとりの思いを反映させる仕組みを作れるかが一番重要であるとのことでした。

最後は、「(有)正八の宮川正和代表取締役から「私の農業法人経営」と題して講演していただきました。宮川社長の会社では、平成29年よりベトナムからの実習生を受け入れているとのこと。現場だからこそ語れる外国人材の受け入れについてのお話をたくさんいただきました。



講演する宮川正和代表取締役



## 第1回

## 農業委員紹介コーナー



農業委員  
齊藤 善彦

みなさん、こんにちは。会長職務代理者の齊藤善彦です。今号から農業委員・農地利用最適化推進委員を紹介するコーナーに誌面を割かせていただくことになりました。栄えある第1回は私が担当させていただきます。

## 「私には夢がある。」

農といえば食と思われがちだ。確かにそのとおりなのだが、食をお任せできる農家は本市にはたくさんいるので、私は農で医をやりたいと考えている。

思えば、風変わりなことばかりやってきた。

雄和の繋で生まれ、現在67歳。昭和50年に父親の元で営農を始めた。

今は米を2町5反歩と畑を4反歩。

雄和時代を含め農業委員は6期目。

農業委員の活動を通じて、先進地視察研修に行く機会がある。こ

れまで自分が知らなかったものを栽培しているのを見ると、無性に自分でもやってみたくなる。黒にんにくがそうだった。ただし、先駆的・投機的な取り組みをしても自分だけ儲かるうと思つたら駄目だ。良いものは惜しまずに集落に広め、地域で取り組んでこそ自分にも還元される。これが唯一培った哲学かも知れない。

そんな私が今夢中になっているのは、カボチャだ。

皆さんは、カボチャのどの部位を食べるであろうか。私の取り組んでいるカボチャは果肉は捨てる。ではどこを食べるのか。種である。実を捨てて種を食うとは、変わったカボチャもあつたものだ。どこか私に似ている。

このカボチャ、尿漏れに効くとの評判で、この症状でお悩みの知人達に試してもらつたところ、軽快したとの報が続々と届いている。おもしろいと言ってくれる消費者の笑顔も農の楽しみであり、ありがたうと喜んでくれる銀齢の方々の声もまた農の喜びである。

この喜び、男子の生業なりわいとして

本懐に足らんや。」

## 事務局職員の所感



竹内 元 参事

農業委員会事務局には、以前、平成8年度から14年度までお世話になりました。当時の私は農業の何たるかもまったく分からないまま、延べ7年間にわたり農業委員の皆さまを始め、農家の方々や職場の同僚の力をお借りして、何とか業務をこなしていたように思います。

今年度、4月から再び農業委員会事務局勤務を命ぜられ、秋田市職員としての34年目を過ごすこととなりました。16年ぶりの配属には、やはり懐かしい思いがあつたのと同時に、正直なところ「以前の経験もあるし、まあ何とかなるだろう」という気持ちもありました。

しかしながら、久しぶりの農業委員会は、私の予想とは大きく変わっていました。もちろん、平成28年4月に施行された改正農業委員会法のことです。

農家の生業の場である農地を守ることは、昔も今も変わらずに大事なことです。しかしながら、ただ闇雲に農地を守ることに力注いで、耕す人がいなければ、遠からず荒廃化・遊休化するとは明らかです。

だからこそ、現実を見据えた農業委員会の新たな役割として「農地等の利用の最適化の推進」が謳われたものと考えます。そしてそれこそが、この21世紀において持続可能な農業の推進につながるいくつかののだと思います。

今回、いわゆる管理職として事務局に戻ってきたことについては、その責任の重さを痛感しているところですが、今後とも農業委員の皆さま、農地利用最適化推進委員の皆さまのご指導をいただきますが、微力ではありますが精一杯頑張つて参りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。

# 平成31年度新規就農研修生

## 新規研修開講式に お邪魔しました

本年4月3日、秋田市仁井田の園芸振興センターで平成31年度秋田市新規就農研修開講式が開かれました。

今年度は新1年生として8名の方がセンターに入られました。中には、農業高校を卒業した方、大学で農業を学んできた方、農業とは関連のない異業種で働いていた方など様々な経歴の方がいます。

開講式当日は、みなさんやや緊張した表情を浮かべながらも、農業に対する想いや抱負を堂々と述べられました。



### プロフィールコーナー

- 1 名前  
三浦 桐子 (ひさこ)
- 2 家族構成  
義父・義母・夫
- 3 趣味・特技  
TVゲーム、カラオケ
- 4 センターに入る前の経歴  
美容師として働いていました
- 5 休日の過ごし方  
好きな野菜や花の定植
- 6 座右の銘  
「ありがとう」「感謝」



「農業に関心をもったきっかけは何ですか？」

三浦さん：「農業に携わることになったのは、夫が兼業農家をしていて、農作業を手伝うようになったことからです。」

また、私自身が美容師として働いている時の話ですが、大切なお客様のフライダルのヘアメイクをした際に、ヘッドセット用で使用した花に新鮮さがなくてがっかりしたことがありません。そんなこともあって、自分で生産したものを直接届けたいという風に考えるようになり農業に興味を持ちました」

「三浦さんは今年度の研修生で唯一の女性ですが、農作業自体に泥臭い・重労働というイメージはなかったですか？」

三浦さん：「作物を相手にする仕事なので、休みがないのかなというイメージはありました。ただ、美容師時代は常に時間に追われて、ゆとりがない状態でした。それと比較すると、確かに農業は重労働の作業があり大変だなと感じることはありますが、時間の流れが自分にとってゆるやかな感覚があつて、農業は楽しいなと感じています」

「研修センターに入所する前と後で自身の変化はどんなところに感じますか？」

三浦さん：「入所する前は夫の農作業の手伝いをしていても、使用している農薬などは全く分かりませんでした。センターでの学習を経て、何のための農薬なのか、肥料の分量はどれくらいで何を使用的のか分かるようになりました。」

また、センターから分けていただいた苗を自分で植えて、教わったとおりに摘心したり芽かきをすることができるようになりました」

「研修2年目には、自分の専門コースを選択することになりますが、今のところは野菜か花きのどちらを選ぶ予定ですか？」

三浦さん：「美容師時代の経験もあり、ダリアの生産をしてみたいと思っているので、花きを選択するつもりです」

「花きの生産について、6次産業化などの構想はありますか？」

三浦さん：「あります。今は通信でプリザーブドフラワーという枯れない花の加工の勉強をしています。例えば、ダリアであれば球根をとるために花を切らなければなりません、切った状態で保存しておけば花が枯れないので、その花でアクセサリーなどを作りたいと考えています」



今年、およそ30年続いた平成が終わる、新元号令和の時代を迎える年となりました。この30年間の間に農業を取り巻く環境は大きく変化しましたが、今の時代に農業に携わろうとする人はどんな人なのか？そういった関心を基に、今年度の新規就農生お二人にお話を伺ってきました！

**新規就農研修生に  
お話を伺いました！**

**園芸振興センターでの学び**

**2年目 応用と実践**

- ・プロジェクト研修を通して、応用的な知識や技能等を習得する。
- ・就農に向けて営農計画書を作成し、青年等就農計画の申請により認定新規就農者の認定を受ける。

**1年目 基礎の習得**

- ・園芸振興センター等スタッフの指導のもと、基礎的な知識や技術等を習得する。
- ・2年目に取組むプロジェクト(模擬経営)研修の実施計画を作成する。

**共通**

☆栽培技術：野菜・花きの栽培に関する基礎的な技術を、実習を通して習得する。  
 ☆経営技術：秋田県農業研修センター主催の各種研修等を受講し、農業経営管理に関する知識や技術等を習得する。

佐々木さん：「私の家では水稲栽培しか行っていない中で、野菜や花きなどを取り入れて収入

**「園芸振興センターに入ろうと思った動機は何ですか？」**

元々、飲食関係の仕事に就いていたこともあり、食への関心が高く、手伝いをする中で、もっとおいしい物を作りたいという意欲が湧いてきました。

**「農業に関心をもったきっかけは何ですか？」**



**プロフィールコーナー**

- 名前 佐々木 充 (みつる)
- 家族構成 祖父・義父・義母・妻
- 趣味・特技 パン作り、ランニング、音楽鑑賞など
- センターに入る前の経歴 パン職人をしてました
- 休日の過ごし方 妻と外食など
- 座右の銘 「温厚篤実」「臥薪嘗胆」

**「研修で苦労されていること、楽しいなと感じることをそれぞれ教えてください。」**

佐々木さん：「苦労していることは、時期によって野菜の価格の変動が思ったよりも大きく、就農時の作付計画に悩んでしまうことです。

また、楽しいことは様々な野菜、花きの生育を見守ることができることと研修を通じて自分の農業に対する技術・知識が高まっていくのを実感できることです」

**「佐々木さんはパン職人をされていたというのですが、将来的にパンと野菜を組み合わせ販売していくという考えはありますか？」**

佐々木さん：「そうですね、6次産業化ということ考えているのは、自分が持っている米粉パンマイスターの資格を生かして米を使ったパン作りをしたいなと考えています。一番の理想は、米粉パンと地元秋田の野菜を使った商品を提供することです」

**「農業をしていく上で、パン職人の経験が生きているのはどんなところだと感じますか？」**

佐々木さん：「パンと野菜を組み合わせた商品作りを進めていくとなると、重要なのは、旬の野菜を取り入れることです。センターでの研修で農産物に関する知識がより高まり、旬の物を見極める力がつければ、よりおいしいパン作りにつながっていくのではないかと思います」

# 女性農業委員関連記事

## 東北・北海道ブロック 女性農業委員研修会



農業委員  
松本 トシ子

8月22・23日に仙台市において開催されました研修内容を紹介します。

はじめに岩手県一関市の(有)かさい農産社長、葛西亮介様より「社員一人ひとりが輝ける職場を目指してー女性活躍に向けた取り組みー」と題した講演を聴きました。同社では、地域の女性を積極的に雇用することで構成員の74%を女性が占めています。

また、子育て中の女性がいる場合には、子どもの行事等に参加できるよう、子育てを優先した休暇取得が可能であり、女性が職業人としても母親としても成長できる環境が整備されている印象でした。葛西社長の「お客様が幸せであること、自分たちも幸せで暮らせること」を第一にした経営方針から学ぶべきことがたくさんあると感じました。

次の講演では、「地域の話し合い活動を円滑に進めるためにー伝える・伝わる声と話し方ー」と題しましてウオイス&トークの赤間裕子様の講演を聴きました。コミュニケーションを通して自分の考えを相手に伝達・交換することの大切さを教えていただき、有意義な2日間の研修となりました。今回の研修で得られた知見を今後の活動に生かして参りたいです。



講演に耳を傾ける女性農業委員

## 女性農業委員の活動



小林 素子 技師

この度、松本トシ子委員と柴田ますみ委員に同行し、200人もの女性農業委員・推進委員が一堂に会する、東北・北海道ブロック農業委員会女性委員研修会へ出席しました。

当日お会いした方々に、女性農業委員として注目されがちな中、「苦勞も多いのでは」と伺ったところ、「女性農業委員」というプレッシャーを感じることはあつたけれど、意外にも「女性」だからという理由で苦勞を感じたことはない。むしろ他の組織の役員との掛け持ちが大変で、総会は1年を通して大体の日程が決まっているが、視察などが、役員会議と被って、片方に出られないこともあつた」とのこと。そんな中、改選の時期も近づき、委員を続けるか悩む方もいましたが、それでもほとんどのの方が、委員になつてよかったと話していました。理由を訊くと、「委員の多くは立派な技術者なので、そういう人たちの話を聞けるといふのはとても勉強になる。こういう研修会に出れば、元JA職員や農家など、全国のいろんな立場の人たちとつながることができる。地域の女性農業委員とも知り合えた。これは委員になつたからこそ経験」とのこと。実際、研修後の情報交換会では、法人化の相談や人・農地プランの進め方から野菜の漬け方など、農業委員会活動のほか、女性ならではの日常の話題などについて和気あいあいと話合っていました。

今回出会ったみなさんの生き活きた日々の活動を伺うことができ、私も一層頑張ろうと思える研修会でした。

# 中央地区農業委員会会長会管外視察研修 in 豊洲市場



佐々木 吉秋 会長

5月28日に豊洲市場の視察に参加しました。

豊洲市場は、昨年10月、約83年の歴史を終えた築地市場から役割を引き継ぎ、食の安全・安心の確保や効率的な物流、様々なニーズに対応する日本の中核的な市場としてオープンしました。

敷地は約41ヘクタールと広大ですが、駅から各建物まで連絡通路や見学者通路が整備されており、青果棟、水産卸売棟、水産仲卸売棟の順でスムーズに見学することができました。魚や野菜などのセリは、残念ながら時間帯の都合で見ることができませんでしたが、コールドチェーン機器(生鮮食品などを生産・輸送・消費の過程で途切れることなく低温に保つ物流方式)など最新設備を見ることができました。

水産仲卸売棟では、一般見学者も小売店で買い物をするのができ、市場らしい魚のおいが漂っていました。

また、市場内には3箇所に分散して様々な飲食店が整備されており、飲食目的だけでも豊洲市場は一見の価値があります。



豊洲市場 (青果棟)



農業委員会行政視察レポート



農業委員 佐々木 繁明

7月1日から1泊2日の日程で岩手県八幡平市と滝沢市への行政視察に参加しました。初日に八幡平市農業委員会、2日目に滝沢市農業委員会をそれぞれ訪問しました。

こういった視察では、とかく訪問先から一方的に説明を受ける研修に終始しがちですが、両市とも前年度に本市を視察で訪れており、お互いの委員会活動についてある程度把握している経緯があります。

そのため、今回の視察では、あえてテーマを設定せずに、日々の活動で抱えている課題や悩みなどについて率直な意見交換を行いました。

八幡平市では、農地パトロールなどで耕作放棄地を発見した場合は、委員会主導で非農地判定を行い、守るべき農地を明確化していることを伺いました。滝沢市においては、農業委員・農地利用最適化推進委員という肩書にとらわれずに、お互いが積極的に交流(情報交換)することで、地域の課題に協力して取り組んでいるそうです。どちらも本市の活動にとって大変参考になることばかりでした。



いちごの森 左：外観 右：内観

視察の最後に訪問した(株)サラダファームでは、運営しているレストランで昼食をいただいた後、園内の各種施設を見学しました。「いちごの森」というビニールハウス内では、土を使わない水耕栽培によるいちごの育成が行われていました。パイプを使った珍しい栽培方法を初めて見る委員も多く、栽培の仕組みや経費等に関して質問が相次いでいました。



(株)サラダファームにて

2日間の視察で得られた知見を本市農業委員会活動の参考として、今後の取り組みに生かしていきたいと考えています。

郡山市農業委員会からの視察について



推進委員 佐々木 和昭

秋田市の農業委員会と行政の取り組みを視察するため、7月3日に郡山市農業委員会が視察研修に訪れ、私もその場に参加したので報告します。

視察研修は秋田市役所5階の第3・第4委員会室で開催しました。事務局より秋田市農業の現状と課題や農業委員会の概要、農地利用の最適化の推進に関して説明を行いました。

その後、農業委員・農地利用最適化推進委員から区域部会での活動やタブレットを活用した農地パトロールについて説明しました。

推進委員の活動については、現場での活動を通して見える地域の課題や課題解決に向けた取り組みについてお話しさせていただきました。

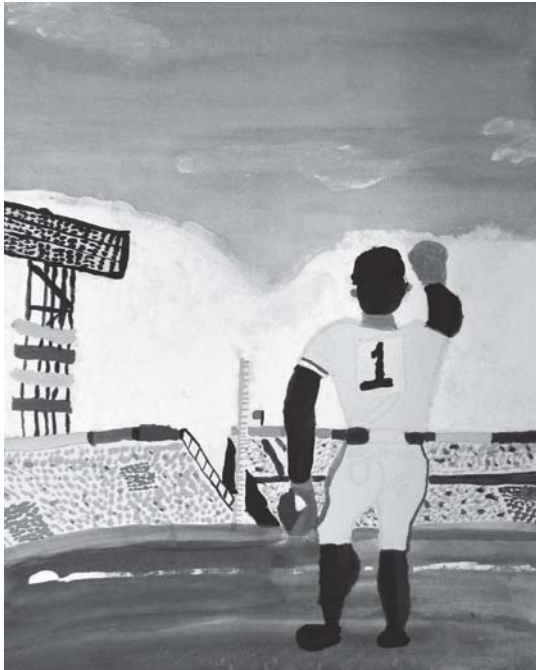
郡山市農業委員会は、特にタブレットへの関心が高く、導入の経緯や活用状況とその効果など様々な質疑応答が行われました。研修の最後には、タブレットの操作体験ということで、タブレットの使い方などを実演しました。

私の操作説明でうまく伝わるか不安でしたが、郡山市の農業委員からは「今回の視察を通して、タブレットの有効性が分かった。導入に向けて前向きに検討していきたい」との言葉をいただき、双方にとって実りある研修となりました。



タブレット操作実演の一コマ

### 農業こども絵画コンクール作品募集



H30最優秀作品

### 編集後記



柴田 ますみ 委員  
(農業委員)

下北手在住の農業委員の柴田ますみです。皆様には毎時ご協力を頂き、感謝しております。さて、7月1日、2日岩手県滝沢市、八幡平市にて、行政視察研修を行い農業生産法人 株式会社サラダファーム様へ伺ってきました。こちらの法人は観光農園、6次産業にも取り組み、従業員60人以上（パート含む）を抱える大きな経営体です。特に人材育成に力を入れており、独立就農を目指すインターンも積極的に受け入れをおこなって

いるそうです。法人立ち上げ当初は方向性が定まらず従業員の出入りの多かったそうですが、海外研修、社内でのリーダー研修等の実施、業務のグループ分けを行い、少人数での細やかな情報の共有を行うなど、スタッフの意識向上を図ったところ、近年では離職者が1人もいないそうです。このような取り組みは就農を希望される方にとって、大変魅力のあるものだと思いますし、とても参考となりました。最近では法人化が進み、耕作面積の拡大に伴う人員不足、後継者となる担い手の不足が心配されていますが、農業委員として、多方面からフォローできるような努力していきたいと思えます。

#### 【応募方法】

- ①参加資格 秋田市内の小学生
- ②テーマ 農業のことであれば自由
- ③サイズ B3（4ツ切りサイズ）・画材は自由
- ④締め切り 令和元年10月31日（木）
- ⑤応募先 通学している小学校または秋田市農業委員会へ（住所は表紙記載のとおり）
- ⑥その他
  - ・タイトル、学校名、学年、氏名を記載した紙を作品の裏面に貼り付けてご応募ください。
  - ・応募全作品の展示を行う予定です。応募作品は展示後返却いたします。

#### 【表彰内容】

応募作品から最優秀賞1点、優秀賞1点、特別賞複数点を選出し、賞状と副賞を贈呈します。また、応募者全員に参加賞を進呈します。

### 農業者年金に加入しませんか？

→加入要件はたったこれだけ！

- ①60歳未満の方
  - ②国民年金1号被保険者
  - ③年間60日以上農業に従事している方
- ※配偶者や後継者などの家族も加入できます。

→多くのメリットが！

- ①終身年金で80歳までの保証付き！
  - ②支払う保険料は全額保険料控除
  - ③手厚い政策支援で保険料の国庫補助も！
- お申し込み、お問い合わせは  
JAもしくは農業委員会へ!!



全国農業新聞は、暮らしと経営に役立つ農業情報のほか、経営のパートナーとして活躍している農村女性や若い青年農業者の活躍など元気あふれる情報をお届けします。

- ・発行日……………毎週金曜日
- ・購読料……………700円／1か月（送料、税込み）
- ・お申し込み…秋田市農業委員会事務局へ  
TEL 888-5796